

大腸癌，直腸癌に対する予防的卵巣摘出

Oophorectomy in Women with Carcinoma of the Colon and Rectum/Paul H. O'Brien, et al.: S.G.O., 153: 827~830, 1981.

1951年 Burt は大腸癌（以下直腸癌を含む）の卵巣への転移が多いとの統計学的考察に基づき，19例に対し予防的卵巣摘出を行つたと報告している．以来諸家の報告では転移率は3~8%とされているが，Barber は摘出卵巣の連続切片を 作製すれば転移率は25%と高率になると報告している．また Speert は40歳以上の一般婦人の原発性卵巣癌の発生頻度は1%であるので，閉経後の婦人で開腹術を受ける患者には全て予防的卵巣摘出を行つた方がよいとさえ言っている．

著者らは1969年より1979年の10年間に行われた大腸切除327例および大腸癌にて死亡した剖検例21例のうち経過観察の行われた268例を対象として次の項目について検討，考察を加えた．

①予防的卵巣摘出術の頻度

②術中，術後の卵巣および骨盤内臓器への転移の頻度および予後

<結果>

大腸切除が施行された255例のうち21例，8%に予防的卵巣摘出が行われた．病理学的に転移を認めたものはなかった．

術中に明らかな卵巣転移を認めたもの，大腸癌および大腸が卵巣と癒着していたもの，卵巣のう腫を認めたものの計19例にも卵巣摘出が行われたがこれらのうち14例に転移を認めた（全体として14/255，5.5%）さらに卵巣摘出を受けなかった215例のうち8例は経過観察中に卵巣転移が出現した（8/215，3.7%）．

卵巣転移を起こした症例の予後はきわめて悪く術後に

転移を起こしたものの平均寿命は14.8カ月であり，術中にすでに転移を認めたものは6.1カ月であった．

大腸癌自身の深達度と卵巣転移の頻度には相関は認められなかった．

大腸癌の占居部位は，左半結腸より肛門側の症例に転移が多く，直腸，S字結腸癌に限ると54例中5例（5/54，9%）に転移が認められた．

年齢分布は若い患者に転移が多く51歳以下では29例中8例（8/29，27.6%）と高率に転移を認めた．さらに生理との関係をみても閉経後では卵巣転移3.6%骨盤内転移8%であったのに対し閉経前では卵巣転移28%骨盤内転移33%と高率に認められた．

<考察>

大腸癌に卵巣転移をきたしたものの予後は非常に悪く著者らの報告では5年生存例はなく，諸家の報告でも5~8%とされている．Barber らは大腸癌患者では後になつて原発性卵巣癌発生の頻度も一般より高いことも考えあわせて予防的卵巣摘出の一つの根拠としている．Block らはリンパ系の研究より，肛門より4インチ以内の直腸癌には卵巣子宮を含めた骨盤内臓器の摘出を勧めている，これらの結果より著者らは大腸癌に対して卵巣転移および続発する原発性卵巣癌の可能性を考えて予防的卵巣摘出を強く勧めている．

われわれも予防的卵巣摘出の重要性を認め1980年より早期癌をのぞく大腸癌に対し予防的卵巣摘出を行つていくが，1例に一見正常と思われた摘出卵巣に転移を認めている．また卵巣摘出を受けなかったDukes' B症例に術後1年に両側卵巣転移をきたし手術を行つていく．さらに今後の経過観察について報告したいと思つていく．

（聖路加国際病院外科 西尾剛毅・榊瀬信太郎）

BOOKS IN ENGLISH

NEW!!

COLONOSCOPY

Diagnosis and Treatment of Colonic Diseases

新谷 弘実

Chief of Surgical Endoscopy Unit, Beth Israel Medical Center, New York
Clinical Professor of Surgery, Mount Sinai School of Medicine, New York

●B5 頁256 図27 写真55 原色図194 色図19 1982 ¥17,000 千300

医学書院 1113-911 東京・文京・本郷5-24-3 東京(03)811-1101 振替東京7-96693